

はじめに

インテリア科で学んでいる私たちは、このデザイン選手権にのぞむにあたり、従来にはない新しいタイプの家具を設計しようと考えました。そこで、市場調査をした結果、幼児が使用できる家具の設計に取り組むことにしました。その理由として現在、幼児用家具として売られているものは色をカラフルにしたり、キャラクターを用いて幼児らしさを出しているものの、実際幼児が使用することを目的としたものではなく、親が幼児の服を収納するためだけに使用する家具がほとんどだからです。幼児のためのおもちゃは沢山ありますが、幼児が自ら使用する家具はあまりないのが現状です。

このことから、幼児用の家具としては、収納スペースを優先させた箱型よりも、幼児自らすすんで着替えをする意欲が湧き、自主・自立性を育むような、遊具的な家具が適していると考えます。

調査

成人用家具と幼児用家具の比較

	ワードローブ			チェスト		
	幅	奥行	高さ	幅	奥行	高さ
成人用	1550	580	1950	990	450	1355
	1273	580	1950	1100	465	1250
幼児用	880	580	1900	840	450	1160
	750	580	1800	1130	450	1020

左記の調査から幅に関しては、ワードローブ・チェストとも成人用の寸法が大きくなっています。これは、衣服が大きく、また量も多いためと考えられます。奥行と高さはワードローブ・チェストともほぼ同じ寸法になっています。特

に幼児用の高さが成人用と同じということは、幼児用の家具といっても、幼児が使用することを目的としていないことがわかります。

問題点

- 幼児用の家具の寸法は大人が使用することを前提として寸法を設定してあるので幼児が使用することは困難である
- 幼児の着替えは親がダンスから服を選び、幼児に着せてあげるケースが多いので、着替える楽しさに欠ける

コンセプト

幼児期においては、右の図に示すように個人差はありますが3歳～5歳にかけて服の前ボタンを一人ではめることができるようになります。また、この時期は早い子では3歳から、たいていの子が満4歳の4月には幼稚園に入園します。こうした集団保育の場に定期的にかようことによって起きる・食べる・寝る・着るなどの生活のリズムが出てきて、自立するために必要な基本的な生活習慣が身についてきます。また、自分でやろうという心（自主性）が育ってくるので、世話をやきすぎないように、できることは自分でやらせてあげることが発達を助けることとなります。

以上のことを踏まえ、幼児用の家具の設計にあたり、次のコンセプトをたてて、取り組みました。

●ひとりのできるのはいつごろ？ (%)

		3歳	4歳	5歳
服の前ボタンをひとりではめる。	男	8.3	66.6	72.0
	女	37.5	76.4	85.2
	計	25.0	71.8	78.2
上靴をひとりで着る。	男	0	58.5	67.3
	女	25.0	65.6	78.2
	計	14.3	62.2	72.6

〔乳幼児発達調査報告〕大日本児童学会より

- 1 幼児が自らすすんで着替えをする意欲の湧くもの



自主性を育てる

- 2 ボタンのはずし方やはめ方、ズボンやスカートなどはき方が身につくもの



基本的な生活習慣の確立

- 3 着替えは一度できたからといって、次もできるとは限らず、繰り返し気長に身につけるものであることで遊びの要素も取り入れる



遊具の機能も兼ねそなえる

この家具は、衣服の収納を目的としたものではなく、幼児の着替えに対する興味を高めることをねらいとします。したがって、衣服は前回の晩に履がセッティングし、幼児が朝、着替えをするシステムをとります。

ここに穴が開いていて、この棒を
差し込むようにする



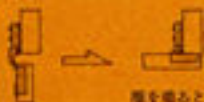
足を上げる又は着せる場合は、棒
をはさず

ここで示す寸法は、子供自身が服を着せたりはずしたりする
ので、子供が作業をしやすいように余裕をもたせ多少大きく
してあります。



厚い服を着せやすくするため、
このような部材を入れた前後に動か
せるようにする

スライド丁番



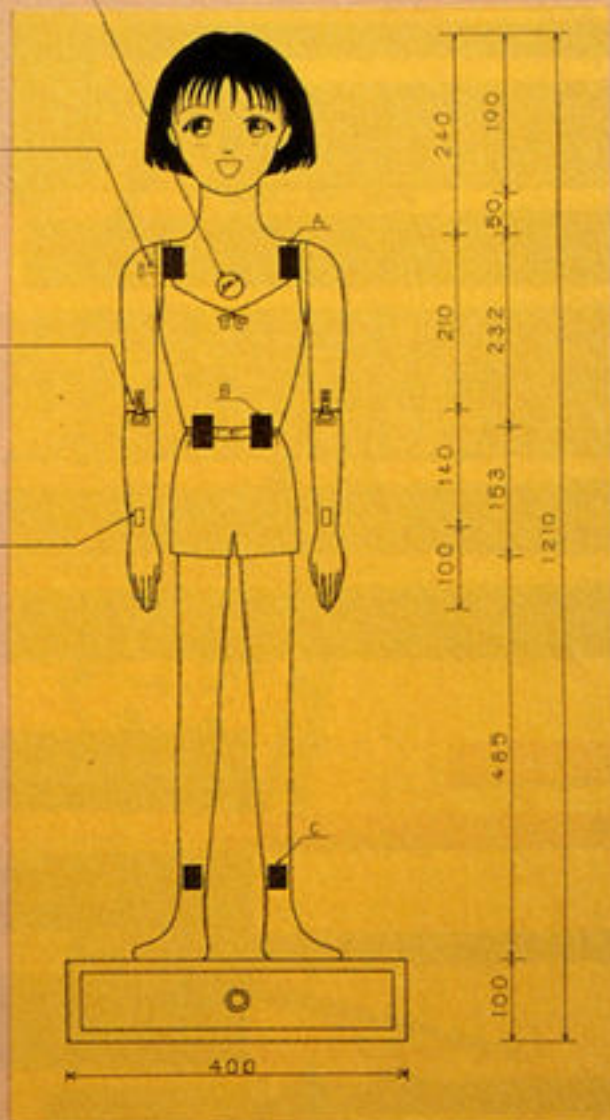
服を着るときや脱いだりする時の
ために、肘の部分にスライド丁番
を取り付け、直角に曲がるように
する

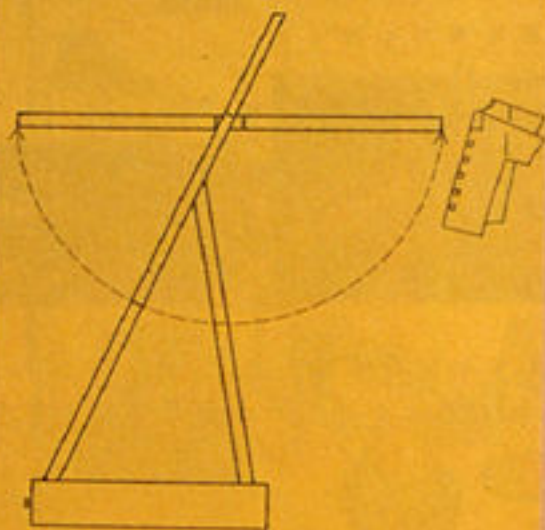
マジックテープ

回転用の輪



- A— 上着を上げるためのクリップ
- B— スポーンを上げるためのクリップ
- C— 靴を上げるためのクリップ





前開きの服を着させる場合、着させやすいように胸を前後に動かす



・靴下、ズボンはクリップで下げる

・トレーナーやTシャツなどのかぶって着る服はクリップで肩から吊るし、袖の部分はマジックテープでとめる

・帽子も頭にかぶれる



<輪投げ遊びをする場合>

- 1 まっすぐな腕を曲げ、直角の状態にする
- 2 胸に棒を差し込む
- 3 遊び終わったら輪投げ・棒は、下の引き出しに収納する
- 4 腕は元に戻す